

今後の P I に関する主な意見

P I 会議で頂いた意見

全体 P I について

(全体 P I のあり方に関わる意見)

- ・ P I 会議で結論を出せるものについては出していくべき。
- ・ 仮に外環ができる場合、事業中や事業後も P I は継続し、約束事などが守られているかのチェックをする場を設けるべき。
- ・ 情報発信をもっとしっかりやって欲しい。
- ・ 外環ジャーナル等の情報提供の仕方をもっと慎重に考えて欲しい。

(議題に関わる意見)

- ・ 外環により地域のまちづくりに影響が出るため、今は都市計画変更案への意見を出し、その後、変更案で残る課題を整理し、その課題に対してどのように P I を進めていくかを整理すべき。
- ・ 地域では外環の必要性にまだ納得ができておらず、引き続き必要性の議論をするべき。
- ・ 財政面など全体に関わるやり残したことは、P I 会議の枠組みの中で関心のある人を集めて行うべき。
- ・ 外環ノ 2 については、別途議論する場を設けることを提案する。
- ・ 外環ノ 2 について、今 P I 会議で議論すること自体に反対である。
- ・ 外環ノ 2 についていずれ P I 会議で議論しなければならない。
- ・ インターチェンジの問題、東名以南等についても早急に話し合うべき。
- ・ 工事着工までにはいろいろな可能性があるはずであり、やり残した問題や住民が不安に思っている問題は引き続き話し合う必要がある。

地域 P I について

(地域 P I のあり方に関わる意見)

- ・ 意見を聴く会では意見交換をただけに終わっているようであり、今後の地域 P I ではできるだけ具体的な議論ができる場にするよう工夫すべきである。
- ・ 地域 P I であっても理念である透明性、客観性、公正さは守るべきである。
- ・ 地域 P I における各区市の役割や位置づけを住民にもわかるよう明確にしてほしい。
- ・ 住民から意見を聴くだけでなく、その意見の反映や評価をどうするのか。
- ・ 外環への関心事項を整理し、関心のあるテーマごとに分科会をやるのがいいのではないか。
- ・ 自治会との話し合いについても、オープンにするべき。
- ・ 自治会ごとに意識はことなるので、自治会との話し合いはオープンにするべきではない。
- ・ 地域住民が多く参加できるように、今後の地域 P I は土日開催にしてほしい。
- ・ 地域 P I では、外環整備に伴って周辺で起きる事態を予測し、それを防ぐ手段を議論する。

(議題に関わる意見)

- ・ 都市計画手続き中に、何を誰と議論し、なぜ今やるのかの理由を市民に明確に示すべき。
- ・ 三日月地域への影響の解決策について何度も要望を出しており、国や都から具体的な方策を出すべき。
- ・ 都市計画案に対する区市長の意見をよりどころとして検討進めるべき。

今後のP Iに関する主な意見

区市から寄せられた今後のPIに関する意見

- ・ 外環計画及びその周辺地域の環境の保全のために、最大限、区と住民の意見を反映させるため、国、東京都、区及び住民の協議の場を設置すること
- ・ ワークショップなど、市民の創造的な参画を可能とする手法の導入を図り、関係機関及び市民との協働によるまちづくりを推進すべき
- ・ P I会議のしくみの充実など十分な合意形成を図ること
- ・ 地域別のP I会議を設置し、地域毎の合意形成をはかること

区市から寄せられた今後検討すべき主な課題

- ・ 堀割部の蓋掛け構造による有効活用
- ・ 三日月地域など地域コミュニティの分断に対する具体的な対策
- ・ 分断されるバスルート、通学路などの対策
- ・ 八の釜の湧き水の検討
- ・ JCT・IC周辺の交通対策、分断される道路の代替機能、まちづくり
- ・ 大気、騒音、善福寺池や地下水など水環境など環境面における詳細な調査、対策
- ・ 環境施設帯・ジャンクション部を活用した遊歩道の整備
- ・ 環境施設帯の植栽の種類
- ・ 換気所における併設施設の検討や地上部施設のデザイン
- ・ 工事中における環境対策や工事車両の通過などに対する安全対策
- ・ 供用後における適切な車両規制など安全対策
- ・ 周辺道路の交通量や大気質等の事後調査及び対策
- ・ 外環ノ2の方向性については、必要性の有無から検討すべき
- ・ 外環ノ2については、オープンに議論することが必要
- ・ 東名以南について

今後のP Iに関する主な意見

外環ジャーナル26号やHPで皆さんから頂いた意見

(P Iの実施方法に関する意見)

- ・参加者同士で目的を共有化した上で議論した方がよい
- ・期限を設けて時間管理を徹底すべき
- ・会議は原則公開してほしい。
- ・専門的な見地からの意見を得るため、学識経験者等を含めて話し合いたい
- ・沿線共通の課題に関する議論のために、全地域合同による話し合いの場が必要
- ・P I会議の位置づけ、委員の選出方法など、P I会議のあり方を見直した方がよい
- ・沿線住民には詳細な計画内容や検討状況に関する正確な情報が伝わるようにしてほしい
- ・専門用語が多く、図面もわかりにくいので、市民にとってわかりやすく情報提供してほしい
- ・計画内容や、住民の意見と行政側の見解、スケジュールなどの情報がほしい
- ・市民の意見の真意をしっかりと把握するために、多様な手段で、広く意見を収集してほしい

(話し合う議題に関する意見)

- ・既存道路の分断による地域コミュニティの分断が心配なので、周辺のコミュニティの保全対策について話し合いたい
- ・換気所が住宅地や緑地の景観を阻害することのないよう、景観対策やデザインについて話し合いたい
- ・地域にとってメリットがある環境施設帯の使い方について考えてみたい
- ・インターチェンジ周辺で渋滞が発生したり、遠藤の環境悪化等が懸念される
- ・地震などの災害時の対策や安全に運転できるよう話し合う必要がある
- ・地下トンネルの整備による地下水脈の分断やそれに伴う地盤沈下が心配
- ・八の釜などの自然や史跡を残したい
- ・供用後に、想定外の影響が生じた場合の対応をしてほしい
- ・工事車両の排気ガス、騒音・振動などの影響が懸念される
- ・工事中に影響が生じた場合の、対策を検討し、実施できる体制づくりが必要
- ・外環の整備効果などさらなる議論が必要
- ・用地、補償、移転の具体的な内容について話し合いたい
- ・外環ノ2の必要性や東名以南の計画に関して議論したい
- ・整備費用の削減方策、早期完成のための方法を考えたい

今後のP Iに関する主な意見

有識者の方々から頂いた意見

(石田東生教授(筑波大学)からの意見)

- ・地域ごとのP Iでは、これまで十分に議論ができていない周辺地域のまちづくりについて議論する必要がある
- ・地域ごとのP Iは複数の地域で実施することになり、地元区市の積極的な協力が欠かせない
- ・工事中や供用後もモニタリングを実施していくべきであり、モニタリングの方法などについて地域ごとのP Iで議論していくのも良いのではにか
- ・多様な関係者が様々な考えをお持ちなのだから、議論の場は必要に応じて多様に設けたほうがよい

(屋井鉄雄教授(東京工業大学大学院)からの意見)

- ・今後は論点を明確にした上で、議論することが重要であるため、地域ごと、課題ごとにP Iを設けることは良い
- ・地域ごと、課題ごとのP Iで議論した内容がどこに反映されるのかP Iに参加する市民に期待される役割が何であるのか、前もって整理しておくことが重要
- ・時間管理の観点から、今後のP Iのプロセスを明らかにした上で、適切な期限を区切って議論を集中的に進められるように、環境を整備すべき
- ・今後のP Iを進めていく中では、P Iのプロセスチェックをする機能も必要ではないか